

港湾振興便り



2025. 9
第220号

:

目 次

*:**

1 ポートエッセイ — 気候の揺らぎに向き合う —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 神戸港ポート天国で海洋環境整備船を一般公開しました！
(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)
- 「清龍丸」就航20周年を記念して「海で働く船 船内見学会」を開催！
(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)
- 「四日市港まつり」にブース出展しました！
(中部地方整備局 四日市港湾事務所)
- みなとを学ぶ「親子みなと見学会」を開催しました
(北陸地方整備局 港湾空港部)
- 児童クラブの児童 35 名と消波ブロックにペイント ～夏休みブロックお絵かきイベント～
(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

3. お知らせ

- ◇イベント名: 令和7年大分みなと祭りの開催
- ◇イベント名: 第16回みなとオアシス
Sea級グルメ全国大会inあおもり

:

1 ポートエッセイ — 気候の揺らぎに向き合う —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

*:**

暑さ寒さも彼岸まで。ご存じのとおり、夏の暑さや冬の寒さは、春分や秋分の日を中心とした彼岸の時期を過ぎると和らぎ、過ごしやすくなる——そんな意味で昔から使われてきた言葉だ。この言葉どおりに心地よい季節となり、秋の気配を感じたいものである。

それにしても、今年の夏の気象は例年以上に異常だった。最高気温が 40℃を超える日が連日のように続き、ついには 41.8℃という過去最高を記録した。少雨が続いて農作物に影響が出たかと思えば、ゲリラ豪雨や河川の氾濫など甚大な災害も発生した。高温による海水温の上昇が異常な降水をもたらしているとみられる。干ばつから壊滅的な洪水まで、極端な変動が人々の暮らしや経済、そして生態系全体を揺るがしている。

南太平洋にある島国ツバルは、地球温暖化による海面上昇で水没の危機に直面している。護岸整備や土地のかさ上げに取り組んではいるものの、状況は悪化し続け、そうした中、国家全体での計画的移住という前例のない取り組みに踏み出した。最新の調査では、今後25年以内に国土の大部分が水没する可能性が指摘され、移住は住民にとって喫緊の課題となっている。国の存続そのものが揺らいでいるのだ。

日本の港湾でも、気候変動に対応する取り組みが進んでいる。国土交通省は今年、「協働防護」という新たな枠組みを港湾法に位置づけた。港湾管理者と立地企業が連携し、気候変動に伴う海面上昇などのリスクに対して共通の目標を持ち、防災・減災に一体となって取り組む制度である。港湾は物流や産業活動を支える重要なインフラであり、その機能を維持することは不可欠だ。近年の気象状況を目の当たりにしている今、欠かせない取り組みといえる。

年々、日本らしい四季が失われつつあるように感じる。四季折々の自然を大切に暮らしてきた日本人にとって、このまま季節の移ろいを感じる機会がなくなってしまうのだろうか。豊かで美しい四季を守るために、そして季節を感じる心を未来へつなぐためにも、私たち一人ひとりが地球温暖化防止への取り組みを続けていきたい。

:

2 トピック

:

●神戸港ポート天国で海洋環境整備船を一般公開しました！

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

令和7年7月26日(土)、神戸港のメリケンパークと周辺海域で開催された「ポート天国」において、神戸港湾事務所では海洋環境整備船「Dr. 海洋」の船内一般公開を行いました。

「ポート天国」は、都心部に近い水域で、海洋レジャーを気軽に楽しめる場所を提供することにより、港や海・船への親しみを深め、海洋スポーツの振興と海事思想の普及、海難事故の防止にも寄与することを目的としたイベントで、1990年から開催され、今回で41回目を数えます(複数回開催年度あり)。

メリケンパークにほど近い神戸港中突堤に係船した「Dr. 海洋」には464人ももの見学者が訪れ、事務所職員が広報用パンフレットの配布や展示ブースでのパネル説明などで事業PRを行いました。



一般公開風景



船内見学の様子

● 「清龍丸」就航20周年を記念して「海で働く船 船内見学会」を開催！

(中部地方整備局 名古屋港湾事務所)

名古屋港湾事務所所属の浚渫兼油回収船「清龍丸」の就航20周年を記念して、令和7年8月3日(日)に名古屋港ガーデンふ頭にて「清龍丸」とグラブ式浚渫船「第381良成丸」の船内見学会を開催しました。

見学会当日は1000人を超える見学者にお越しいただき、普段は目にするのでない船内設備や作業デモンストレーションなどを楽しんでいただきました。

本イベントを通じて多くの方に名古屋港の役割や名古屋港で働く作業船について理解を深めていただく貴重な機会となりました。



「清龍丸」船内見学会に並ぶ多くの見学者



「第381良成丸」の作業デモンストレーション

●「四日市港まつり」にブース出展しました！

(中部地方整備局 四日市港湾事務所)

令和7年8月3日(日)、四日市港地区(四日市千歳町)において、「四日市港まつり」が開催されました。

本イベントは、「海事思想の普及と、親しみ潤いある港づくりを推進し、四日市港の振興発展に寄与すること」を目的とし、開港記念日である8月4日に最も近い8月の第一日曜日に開催されています。当日は天候にも恵まれ、1万人以上の方々が来場され大きな賑わいを見せました。

当事務所は、四日市港霞ヶ浦地区国際物流ターミナル整備事業、直轄海岸保全施設整備事業(四日市港海岸)などのパネル展示や消波ブロック安定実験映像の放映といった観賞型の展示に加え、消波ブロック模型の積上げや記者会見風写真撮影などの体験型の展示も行いました。大人から子供まで多くの方々に足を運んでいただき、楽しみながら公共事業の一端に触れていただきました。

これからも港湾海岸事業の広報に努めてまいります。



展示ブースの全景



消波ブロック模型の積上げ体験の様子

●みなとを学ぶ「親子みなと見学会」を開催しました

(北陸地方整備局 港湾空港部)

令和7年8月21日(木)、22日(金)の2日間、当局の新潟港湾・空港整備事務所と新潟港湾空港技術調査事務所の共催で小・中学生とその保護者を対象に「親子みなと見学会」を開催しました。

整備事務所所有の港湾業務艇「あさひ」に乗船して新潟西港をめぐる「みなと見学」は、2日間で延べ6回運航し、82名の親子が乗船しました。当日は猛暑となりましたが波は穏やかで乗船日和となり、参加者は普段見ることのできない海上からの景色を眺めて楽しんでいました。

また、技術調査事務所では、「水理実験場一般公開」を実施し、水理実験場の平面水槽で造波している様子の動画とみなとの模型製作をしている様子を見学しました。「模型製作にはどれぐらい時間がかかるの」などの質問があり、水理模型実験に興味をしめしていました。

その他にも「液化化体験」や「鳴り砂体験」等の技術開発に関する展示物を見学し、現地の海岸で採取した鳴り砂と人工の鳴り砂を比べて、「人工の方は音が鳴りやすい！」と音の違いを感じていました。防波堤の展示模型の説明に対し、「防波堤を現地で作るまでにいろいろな検討がされている！」と驚いていました。

この見学会を通して、港の役割や重要性を知ってもらう良い機会となったのではないかと思います。



「みなと見学」の様子



展示模型の説明



水理実験場での模型製作(砂投入)



「鳴り砂体験」の様子

●児童クラブの児童 35 名と消波ブロックにペイント
～夏休みブロックお絵かきイベント～

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

九州地方整備局志布志港湾事務所は、令和7年8月7日(木)、志布志港で2回目となる「消波ブロックペイントイベント」を開催しました。

今回は、普段海に触れる機会が少ない志布志市内の山間部の児童クラブである、のがみ児童クラブ・蓬原児童クラブから35人を招待し、港や海への理解を深めてもらうことを目的としています。

イベント当日は、まず安全上の注意事項を説明した後、参加した児童たちに好きな色のペンキを配布。高さ・幅ともに4メートルある巨大な消波ブロックに、海の生き物などを思い思いに描いてもらいました。

児童からは「思ったようにうまく描けないけれど楽しい!」といった声も聞かれ、会場は終始明るい雰囲気に包まれていました。

志布志港は、工事現場やブロック仮置き場など、普段は立ち入りが難しい場所も多くあります。志布志港湾事務所では、港の役割を多くの方に広め、より身近に感じてもらう機会を増やすため、今後もこのような取組を継続してまいります。



開会式を行いお絵描きの準備万端!



自慢の絵を楽しそうに書く小学生たち



小学生が書いてくれた絵をご紹介します



最後はみんなで集合写真!

:

3 お知らせ(みなとのイベント情報)

:

◇イベント名: 令和7年大分みなと祭りの開催

【開催日時】 令和7年11月2日(日) 8:30~15:30

【場 所】 大分港大在公共埠頭

【概 要】 「九州の東の玄関口」とも呼ばれ、世界と日本をつなぐ『大分港』を親しんでもらうため、海上自衛隊艦船の一般公開や魚のつかみ取り大会並びに地元水産物産物、キッチンカー等の出店等多くのイベントを開催します。

【問合せ先】 大分みなと祭り実行委員会 TEL:097-521-2112



